世界の都市総合力ランキング

Global Power City Index 2017

GPCI 10周年特集号

概要版

2017年10月

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所
Institute for Urban Strategies, The Mori Memorial Foundation

はじめに

「世界の都市総合力ランキング」(Global Power City Index, GPCI)は、**世界的な都市間競争の下で、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける、いわば都市の"磁力"こそが「都市の総合力」である**との観点に立ち、世界の主要都市の総合力を評価し、順位付けしたものである。

都市に求められる総合力は、経済・社会情勢によっても変化するため、GPCIでは指標やデータ収集方法の見直しを通じて継続的な改良に努めてきた。GPCI-2017では、いくつかの指標についてより信頼性・客観性の高いデータの収集に努めるとともに、女性の社会進出やICT環境の整備、メンタルヘルス水準といった、今日の状況に即したデータの追加を行った。また、中東における貿易・商業の中心地であるドバイ、南米における主要都市のひとつであるブエノスアイレスの2都市を追加し、合計44都市を対象に評価を行った。

2008年に初めて発表したGPCIは、今年で10周年を迎えた。この10年の間に、世界では金融危機や大規模な自然災害、世界人口の70億人突破、スマートフォンをはじめとするテクノロジーの進展などが起こり、都市を取り巻く環境も大きく変わってきた。それに呼応するかのように、世界の都市もグローバルなコンテクストの中で、その都市力を相対的に変化させてきた。森記念財団都市戦略研究所は、その変遷を10年間追い続けてきた。

過去10年間におよぶ研究の成果は、世界の諸都市が持つ魅力や課題を理解するためにより一層貴重なデータになるはずである。今後、さらに多くの人々によって都市政策や企業戦略の立案に役立てられることを期待したい。

※なお、本ランキングの詳細な調査結果は『世界の都市総合力ランキング YEARBOOK 2017』として2018年1月に発刊を予定しており、調査方法、各都市ごとのスコア・順位の分析、指標の定義、データソース一覧などを詳細に掲載しているので、ぜひご参照いただきたい。

世界の都市総合力ランキング(GPCI)の特徴

1. 特定分野(「金融」や「住みやすさ」など)ではなく、都市の力を表すさまざまな分野を対象として都市の総合力を評価したランキングである。
2. 世界を代表する主要44都市を選定し、都市の力を表す主要な6分野(**経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス**)と、さらに現代の都市活動を牽引する5つのグローバル・アクター(**経営者、研究者、アーティスト、観光客、生活者**)の視点に基づき、複眼的に都市の総合力を評価している。
3. 各都市の強みや弱みを明らかにしながら、克服すべき課題を明らかにしている。
4. 都市研究に関する世界的権威であった故・ピーターホール卿をはじめとする学識者によって立案され、各界の有識者の参画と、国際的な専門家によるピアレビュー(第三者評価)を得たランキングである。

このレポートでは、6分野と5アクターは**太字**、指標グループ名およびアクター要素名は「　」、指標名は*斜体*で示している。

Key Findings

GPCI-2017の特徴

◆GPCI-2017の分野別総合ランキングのトップ5は、昨年同様、ロンドン(1位)、ニューヨーク(2位)、東京(3位)、パリ(4位)、シンガポール(5位)であり、これらの都市は9年連続でトップ5を維持している。

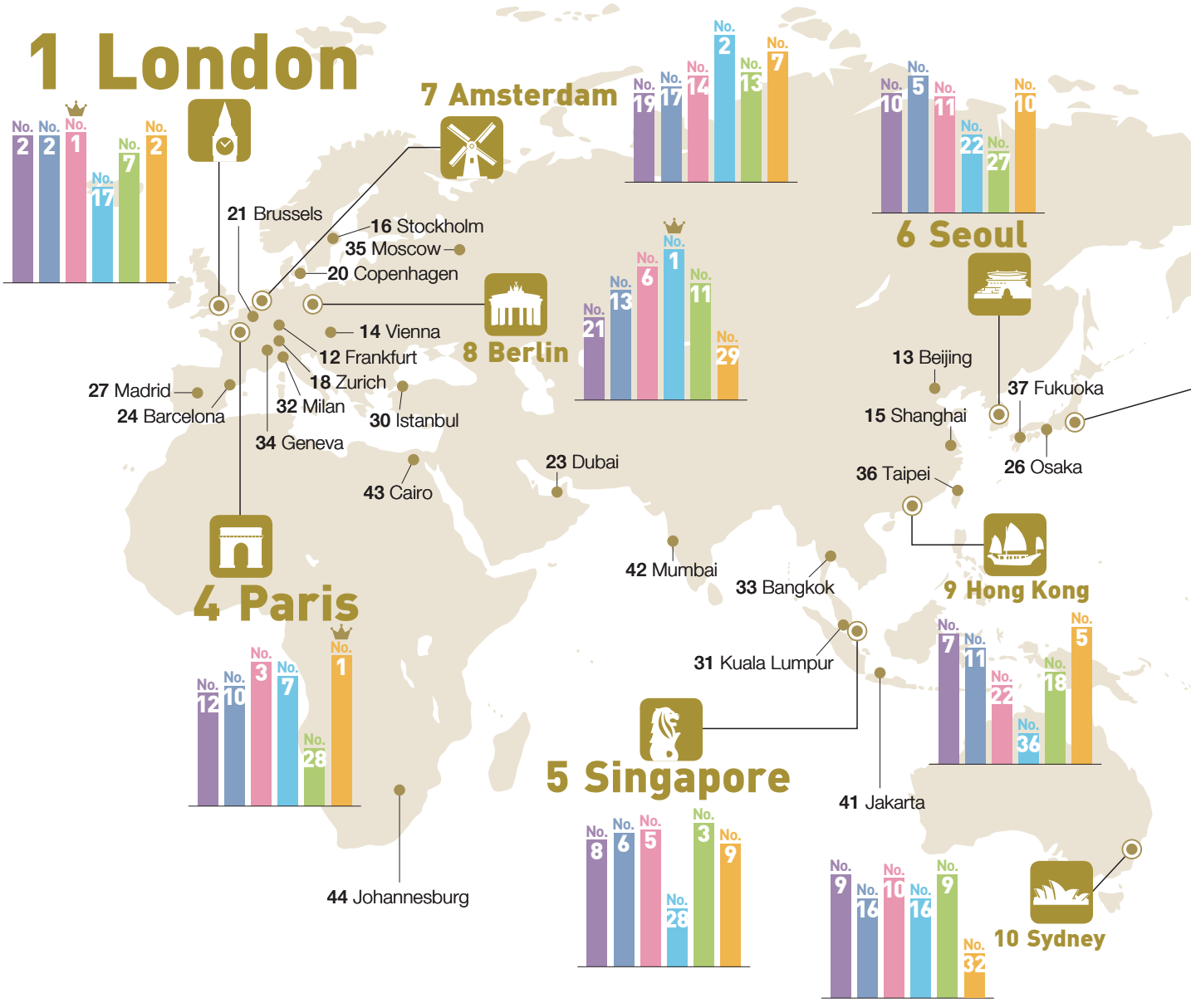
◆シドニー（10位)は順位を4つ上げて7年ぶりにトップ10に入った。このほか、ロサンゼルス(11位)、北京(13位)、サンフランシスコ(17位)なども昨年から大きく順位を上げた。

◆地域別に見ると、ヨーロッパの都市は**居住**と**環境**における評価が全体的に高い。総合ランキングで上位に位置するアジア都市は、**経済**において高い評価を得ている。

トップ3都市の動向

◆6年連続で分野別総合ランキング1位を維持しているロンドンは、**経済**における*GDP成長率*や*政治・経済・商機のリスク*、**文化・交流**における*食事の魅力*、*海外からの訪問者数*などにおいて評価を上げ、2位以下とのスコア差をさらに拡げた。

◆ニューヨーク(2位)は、**経済**における*GDP*や*GDP成長率*においてスコアを伸ばしたものの、**文化・交流**における*世界的な文化イベントの開催件数*や、**居住**における*小売店舗の充実度*などの指標においてスコアを落としたことにより、総合スコアに大きな伸びが見られなかった。



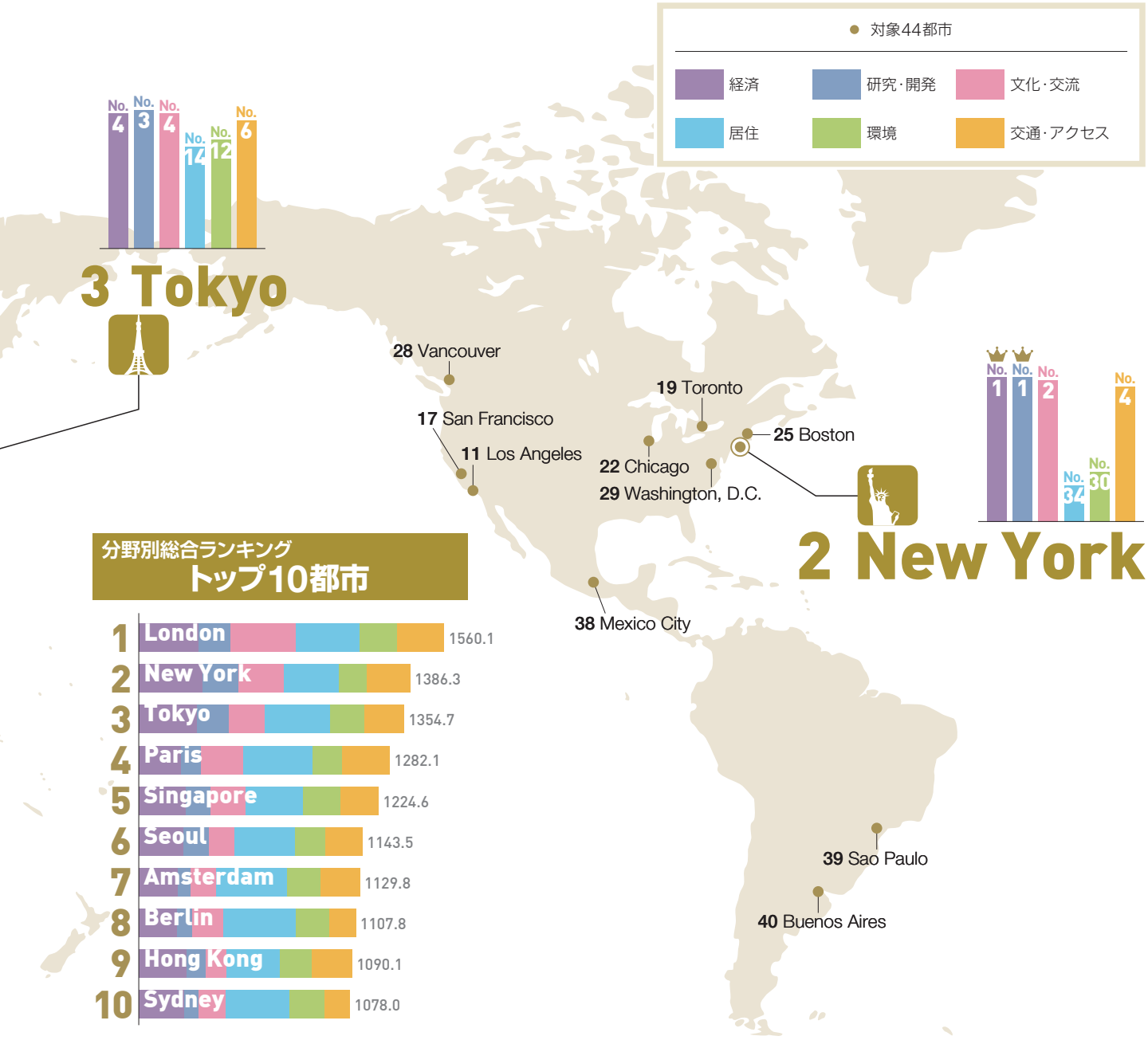
トップ10都市における分野別順位グラフ

◆昨年初めてトップ3に入った東京は、**文化・交流**における*海外からの訪問者数*のスコアが年々向上していることや、ニューヨークのスコアが伸び悩んだことによって、2位とのスコア差を縮めた。一方、**経済**においては「市場の規模」や「市場の魅力」のスコアが低下したことで、1位から4位へ順位を落とした。

新たに加わった2都市の結果

◆GPCI-2017で新たに追加されたドバイとブエノスアイレスは、分野別総合ランキングでそれぞれ23位、40位であった。

◆ドバイは、**文化・交流**で9位、**経済**で11位と強みを発揮しているが、その主な要因は、**経済**における*法人税率*や、**文化・交流**における*ハイクラスホテル客室数*などの評価が高いためである。



分野別総合ランキング トップ10都市

1	London	1560.1
2	New York	1386.3
3	Tokyo	1354.7
4	Paris	1282.1
5	Singapore	1224.6
6	Seoul	1143.5
7	Amsterdam	1129.8
8	Berlin	1107.8
9	Hong Kong	1090.1
10	Sydney	1078.0

2.GPCI-2017の作成方法

2-1 策定体制

本ランキングは、世界の都市研究の分野での権威がメンバーとして監修を行う実行委員会と具体的な分析作業を行う作業委員会によって作成されている。実行委員会は森記念財団都市戦略研究所の所長・竹中平蔵（東洋大学教授／慶應義塾大学名誉教授）を委員長とし、故・ピーター・ホール卿（ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン教授）を最高顧問として他に6人のメンバーで構成されている。

作業委員会は、市川宏雄（森記念財団理事／明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長・教授）を主査として公共政策大学院ガバナンス研究科長・教授）を主査としてデータ収集や分析作業を重ねランキングを作成している。作成にあたってはグローバル・アクターとしての国内外の有識者からの意見聴取も行い、評価の妥当性と公平性を保つ努力をしている。

なお、こうしたランキングの作成過程および結果の妥当性については、2名の第三者評価者（ピア・レビューアー）に評価を依頼し、内容の精査および改善点の指摘を受けている。

策定体制

Executive Committee
実行委員会

ランキング作成の監修

委員長

竹中 平蔵
Heizo Takenaka

東洋大学 教授
慶應義塾大学 名誉教授
森記念財団都市戦略研究所 所長

最高顧問

ピーター・ホール卿
Sir Peter Hall
（1932-2014）

ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン
教授

委　員

市川 宏雄
Hiroo Ichikawa

明治大学公共政策大学院
ガバナンス研究科長・教授
森記念財団 理事

サスキア・サッセン
Saskia Sassen

コロンビア大学 教授

リチャード・ベンダー
Richard Bender

カリフォルニア大学 バークレー校
名誉教授・学部長

アレン・J・スコット
Allen J. Scott

カリフォルニア大学 ロサンゼルス校
特別研究教授

ピーター・ネイカンプ
Peter Nijkamp

ティンベルゲン研究所 フェロー
アダム・ミツキェヴィチ大学 教授

マイケル・バティ
Michael Batty CBE

ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン
教授

Expert Partners
有識者パートナー

調査の協力

グローバル・アクターとしての
国内外の有識者

Peer Reviewers
第三者評価員

ピア・レビューアー

アンドレス・ロドリゲス＝ポセ
Andrés Rodríguez-Pose

ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス 教授
国際科学地域学会 前会長

王才強〈ヘン・チェ・キャン〉
Heng Chye Kiang

シンガポール国立大学 教授

Working Committee
作業委員会

- ランキングにかかわる調査・分析
- ランキング案の作成

主査

市川 宏雄
Hiroo Ichikawa

メンバー

一般財団法人森記念財団 都市戦略研究所
Institute for Urban Strategies, The Mori Memorial Foundation

株式会社三菱総合研究所
Mitsubishi Research Institute, Inc.

2-2 対象都市

対象44都市

エリア	都　市
ヨーロッパ	マドリッド、バルセロナ、ロンドン、パリ、ブリュッセル、アムステルダム、ジュネーブ、フランクフルト、ベルリン、チューリッヒ、ミラノ、コペンハーゲン、ウィーン、ストックホルム、モスクワ
アフリカ	カイロ、ヨハネスブルグ
中東	イスタンブール、ドバイ
アジア	ムンバイ、バンコク、クアラルンプール、シンガポール、ジャカルタ、香港、北京、上海、台北、ソウル、福岡、大阪、東京
オセアニア	シドニー
北米	バンクーバー、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴ、トロント、ワシントンD.C.、ニューヨーク、ボストン
中南米	メキシコシティ、サンパウロ、ブエノスアイレス

（都市の選定基準）

- 既存の有力な都市比較ランキング（The Global Financial Centres Index、Global Cities Index、Cities of Opportunity）で上位10位に入っている都市
- 有力な国際競争力ランキング（World Economic Forumおよび International Institute for Management Development作成）において競争力上位10位に入っている国の主要都市
- 本ランキングを作成する実行委員会または作業委員会から、対象都市として取り上げることが適切として判断された都市

※ただし、上記の基準を満たすものの、データの入手が困難であることから、GPCIの対象都市に含まれていない都市もある。

3-1 ランキングの作成方法

分野別ランキングの作成フロー

分野別総合ランキング

分野	指標グループ	No.	指標
経済	市場の規模	1	GDP
		2	1人あたりGDP
	市場の魅力	3	GDP成長率
		4	経済自由度
	経済集積	5	証券取引所の株式時価総額
		6	世界トップ500企業
	人的集積	7	従業者数
		8	事業所向けサービス業の従業者数
	ビジネス環境	9	賃金水準
		10	優秀な人材確保の容易性
		11	1デスクあたりオフィス面積
	ビジネスの容易性	12	法人税率
		13	政治・経済・商機のリスク
研究・開発	研究集積	14	研究者数
		15	世界トップ200大学
	研究環境	16	数学・科学に関する学力
		17	研究者の受入態勢
		18	研究開発費
	研究開発成果	19	産業財産権（特許）の登録数
		20	主要科学技術賞受賞者数
		21	研究者の交流機会
文化・交流	交流・文化発信力	22	国際コンベンション開催件数
		23	世界的な文化イベント開催件数
		24	コンテンツ輸出額
	文化資源	25	アーティストの創作環境
		26	ユネスコ世界遺産（100km圏）
		27	文化・歴史・伝統への接触機会
	集客施設	28	劇場・コンサートホール数
		29	美術館・博物館数
		30	スタジアム数
	受入環境	31	ハイクラスホテル客室数
		32	ホテル総数
		33	買物の魅力
		34	食事の魅力
	外国人受入実績	35	外国人居住者数
		36	海外からの訪問者数
		37	留学生数

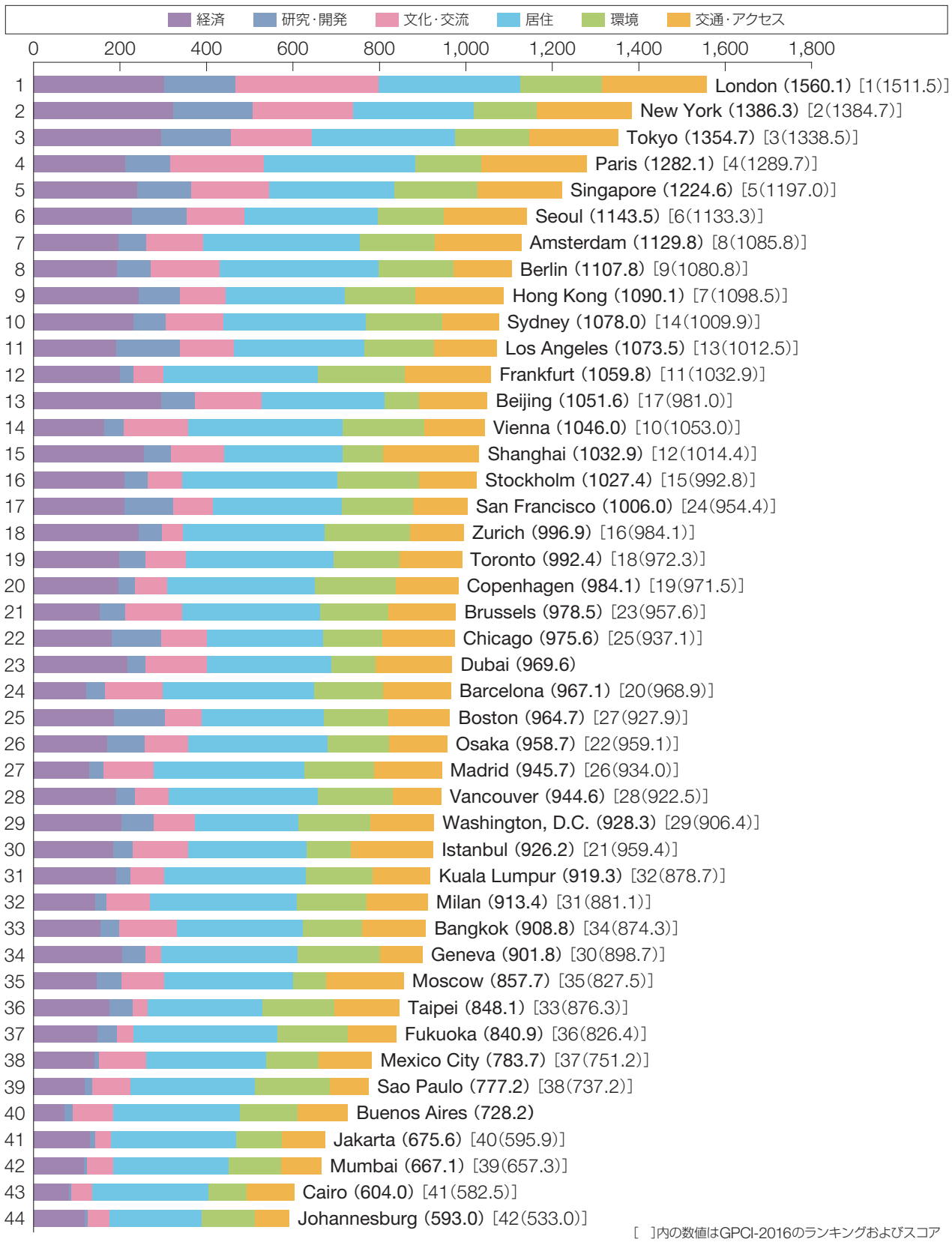
世界の都市総合力ランキング(GPCI)では、6分野(**経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス**)それぞれにおいて、主要な要素を表す「指標グループ」を設定し、さらにそれらを構成する指標を70選定した。各指標をスコア化した上で、指標グループのスコアを合算し、分野別ランキングを作成した。分野別総合ランキングは、それらを合計して作成した。

分野別総合ランキング

分野	指標グループ	No.	指標
居住	就業環境	38	完全失業率
		39	総労働時間
		40	従業員の生活満足度
	居住コスト	41	賃貸住宅平均賃料
		42	物価水準
	安全・安心	43	人口あたりの殺人件数
		44	自然災害の経済的リスク
	生活良好性	45	平均寿命
		46	社会の自由度・公正さ・平等さ
		47	メンタルヘルス水準
	生活利便性	48	人口あたりの医師数
		49	ICT環境の充実度
		50	小売店舗の充実度
		51	飲食店の充実度
環境	エコロジー	52	ISO14001取得企業数
		53	再生可能エネルギーの比率
		54	リサイクル率
	大気質	55	CO_2排出量
		56	SPM濃度
		57	SO_2濃度・NO_2濃度
	自然環境	58	河川の水質
		59	都心部の緑被状況
		60	気温の快適性
交通・アクセス	国際交通ネットワーク	61	国際線直行便就航都市数
		62	国際貨物流通規模
	交通インフラキャパシティ	63	国内・国際線旅客数
		64	滑走路本数
	都市内交通サービス	65	公共交通(鉄道)の駅密度
		66	公共交通の充実・正確さ
		67	都心から国際空港までのアクセス時間
	交通利便性	68	通勤・通学の利便性
		69	人口あたり交通事故死亡者数
		70	タクシー運賃

3-2 分野別総合ランキング

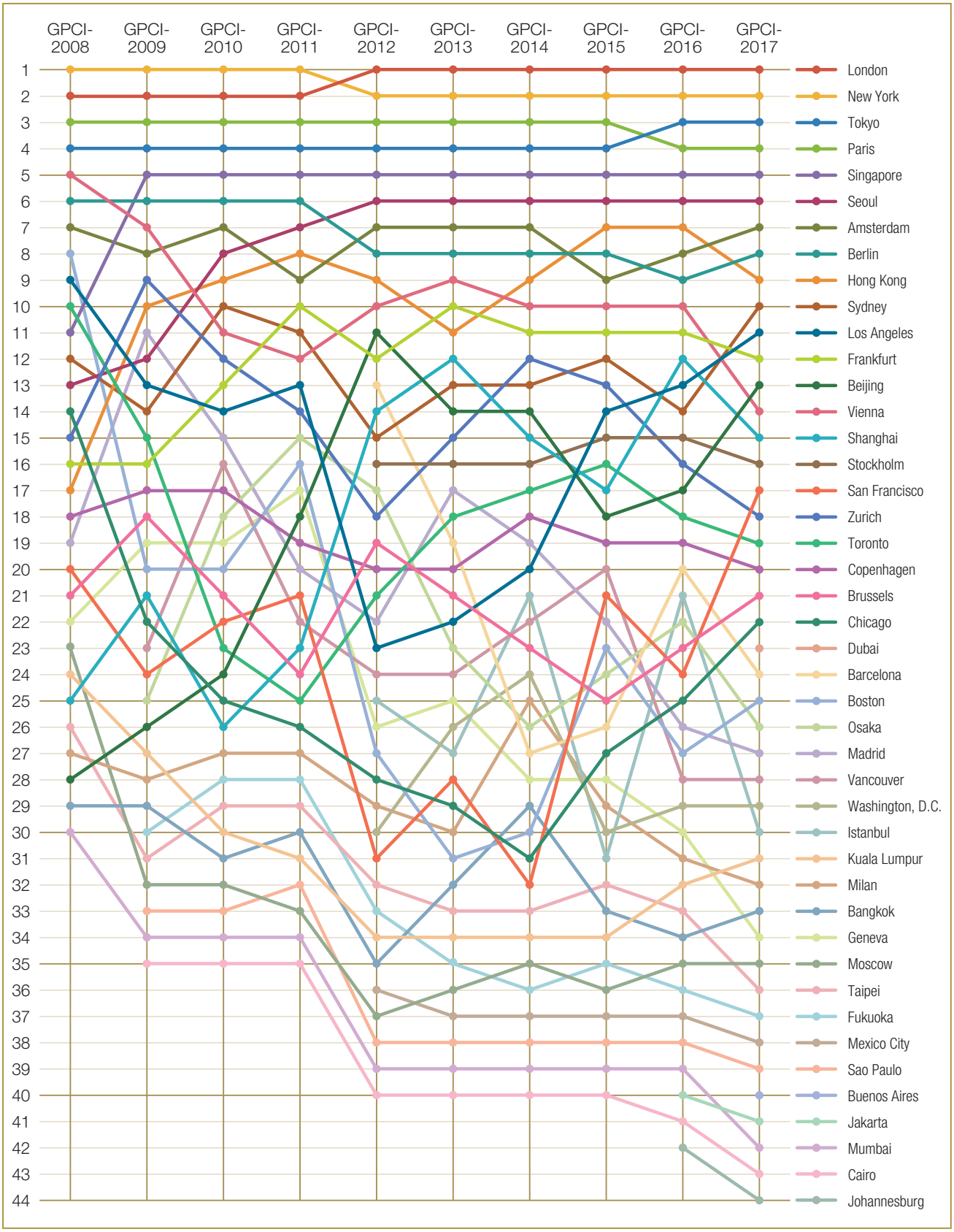
分野別総合ランキング結果



[ ]内の数値はGPCI-2016のランキングおよびスコア

3-3 分野別総合ランキングの変動

分野別総合ランキングの変動（GPCI-2008～2017）



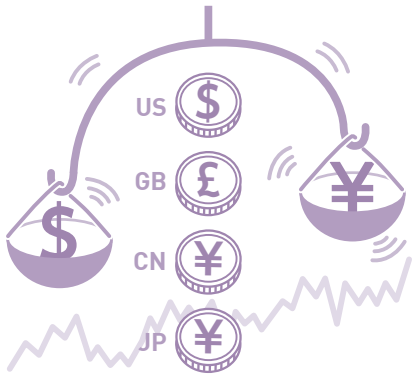
3-4 分野別ランキング

分野別ランキング

ランク	経済		研究・開発		文化・交流		居住		環境		交通・アクセス	
1	New York	323.2	New York	183.7	London	333.1	Berlin	369.3	Frankfurt	200.1	Paris	245.3
2	London	301.6	London	165.1	New York	233.1	Amsterdam	363.7	Zurich	197.5	London	244.0
3	Beijing	295.6	Tokyo	162.9	Paris	217.3	Stockholm	359.2	Singapore	191.4	Shanghai	224.0
4	Tokyo	294.3	Los Angeles	148.9	Tokyo	186.3	Vienna	358.6	Geneva	191.3	New York	221.1
5	Shanghai	256.0	Seoul	126.5	Singapore	180.9	Frankfurt	358.4	Stockholm	190.5	Hong Kong	206.7
6	Zurich	243.7	Singapore	125.4	Berlin	158.1	Barcelona	352.6	Vienna	189.6	Tokyo	206.1
7	Hong Kong	242.7	Boston	119.5	Beijing	155.0	Paris	350.5	London	188.0	Amsterdam	201.6
8	Singapore	239.3	Chicago	113.6	Vienna	148.9	Madrid	348.3	Copenhagen	187.7	Frankfurt	201.2
9	Sydney	231.5	San Francisco	112.1	Dubai	141.9	Vancouver	344.7	Sydney	177.4	Singapore	197.5
10	Seoul	227.9	Paris	104.4	Sydney	135.2	Copenhagen	342.0	Vancouver	174.3	Seoul	192.8
11	Dubai	216.5	Hong Kong	96.4	Seoul	134.0	Toronto	342.0	Berlin	172.8	Istanbul	191.1
12	Paris	211.9	Osaka	87.2	Barcelona	133.9	Milan	338.9	Tokyo	172.4	Moscow	181.5
13	San Francisco	210.4	Berlin	79.7	Bangkok	132.1	Fukuoka	334.0	Amsterdam	172.2	Dubai	177.0
14	Stockholm	209.8	Beijing	77.9	Amsterdam	131.7	Tokyo	332.8	Sao Paulo	172.0	Chicago	168.0
15	Geneva	204.8	Washington, D.C.	75.5	Brussels	131.5	Zurich	329.2	Taipei	167.9	Beijing	158.9
16	Washington, D.C.	202.8	Sydney	73.2	Istanbul	127.7	Sydney	329.1	Washington, D.C.	166.6	Barcelona	158.4
17	Frankfurt	198.8	Amsterdam	65.2	Shanghai	124.0	London	328.3	San Francisco	164.4	Madrid	156.8
18	Toronto	198.5	Shanghai	61.7	Los Angeles	123.6	Kuala Lumpur	327.5	Hong Kong	162.8	Brussels	156.6
19	Amsterdam	195.5	Toronto	60.4	Madrid	117.8	Osaka	321.7	Madrid	162.4	Taipei	150.8
20	Copenhagen	195.4	Brussels	59.3	Mexico City	109.1	Brussels	320.7	Milan	162.4	Bangkok	148.5
21	Berlin	192.3	Moscow	57.8	Chicago	107.4	Geneva	316.0	Fukuoka	162.4	Washington, D.C.	148.4
22	Kuala Lumpur	190.9	Geneva	54.5	Hong Kong	105.9	Seoul	308.7	Los Angeles	161.3	Los Angeles	146.5
23	Los Angeles	190.7	Taipei	54.1	Milan	101.7	Los Angeles	302.5	Barcelona	158.5	Copenhagen	145.3
24	Vancouver	190.2	Stockholm	53.6	Osaka	101.3	Moscow	299.7	Brussels	157.9	Toronto	144.2
25	Boston	185.1	Zurich	52.9	Moscow	98.3	San Francisco	298.1	Kuala Lumpur	154.7	Boston	143.6
26	Istanbul	183.8	Istanbul	46.4	Washington, D.C.	95.2	Buenos Aires	293.4	Toronto	153.9	Milan	142.3
27	Chicago	181.0	Vienna	45.0	Buenos Aires	93.6	Bangkok	292.2	Seoul	153.6	Vienna	140.6
28	Taipei	174.8	Bangkok	44.5	San Francisco	93.5	Singapore	290.1	Paris	152.7	Osaka	136.1
29	Osaka	169.5	Fukuoka	44.0	Toronto	93.3	Sao Paulo	289.8	Boston	148.7	Berlin	135.7
30	Vienna	163.2	Vancouver	43.6	Sao Paulo	89.4	Jakarta	289.4	New York	145.2	Kuala Lumpur	134.7
31	Bangkok	154.2	Dubai	43.2	Boston	84.0	Dubai	287.4	Osaka	142.9	Stockholm	133.7
32	Brussels	152.4	Barcelona	41.8	Stockholm	80.6	Beijing	284.8	Bangkok	137.3	Sydney	131.6
33	Fukuoka	147.7	Copenhagen	39.6	Vancouver	79.3	Boston	283.9	Chicago	136.7	San Francisco	127.3
34	Moscow	145.4	Kuala Lumpur	33.1	Kuala Lumpur	78.4	New York	280.0	Buenos Aires	134.0	Zurich	125.1
35	Milan	141.7	Frankfurt	32.0	Copenhagen	74.1	Mexico City	277.4	Johannesburg	122.8	Mexico City	123.6
36	Mexico City	139.8	Madrid	31.4	Frankfurt	69.4	Hong Kong	275.6	Mexico City	122.3	Buenos Aires	116.9
37	Jakarta	130.0	Milan	26.4	Mumbai	59.8	Istanbul	273.7	Mumbai	121.2	Fukuoka	114.0
38	Madrid	128.9	Buenos Aires	19.7	Cairo	49.8	Shanghai	273.6	Jakarta	107.4	Vancouver	112.6
39	Barcelona	121.9	Sao Paulo	15.7	Johannesburg	49.2	Cairo	269.1	Dubai	103.7	Cairo	110.4
40	Sao Paulo	118.5	Jakarta	12.4	Zurich	48.6	Chicago	268.9	Istanbul	103.5	Jakarta	99.9
41	Johannesburg	118.0	Mexico City	11.5	Fukuoka	38.8	Mumbai	268.3	Shanghai	93.6	Geneva	99.3
42	Mumbai	115.4	Mumbai	8.1	Jakarta	36.6	Taipei	264.7	Cairo	88.5	Mumbai	94.4
43	Cairo	80.6	Johannesburg	7.5	Geneva	35.9	Washington, D.C.	239.8	Beijing	79.4	Sao Paulo	91.8
44	Buenos Aires	70.8	Cairo	5.5	Taipei	35.7	Johannesburg	214.6	Moscow	75.1	Johannesburg	80.9

3-5 分野別ランキング Key Findings

経 済



◆**経済**の上位5都市は、ニューヨーク(1位)、ロンドン(2位)、北京(3位)、東京(4位)、上海(5位)であり、そのうちの3都市がアジアの都市という結果になった。

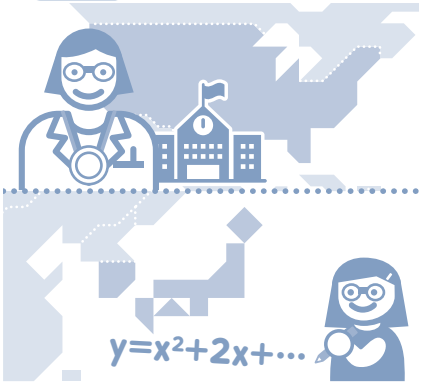
◆昨年1位だった東京は、為替変動(円安)の影響もあり、**経済**の指標全般でスコアを伸ばすことができず、4位まで順位を落とした。

◆一方、昨年3位だったニューヨークは、*GDP*と*GDP成長率*などでスコアを伸ばし、1位となった。

◆アジアの都市の中では、香港(7位)とシンガポール(8位)がそれぞれ昨年から順位を2つ下げている。*GDP成長率*が鈍化したことが主な要因である。

◆新たに対象都市となったドバイは、*GDP成長率*や*法人税率*で高い評価を得て、11位となった。

研究・開発



◆**研究・開発**の上位5都市は、ニューヨーク(1位)、ロンドン(2位)、東京(3位)、ロサンゼルス(4位)、ソウル(5位)であり、ロンドン以外はアメリカの都市とアジアの都市である。

◆アメリカの都市は*主要科学技術賞受賞者数*や*世界トップ200大学*のスコアが高く、アジアの都市は*数学・科学に関する学力*の評価が高いことが特徴である。

◆東京は*研究者数*、*産業財産権(特許)の登録数*ではトップを維持したが、*研究開発費*では為替変動(円安)の影響により相対的にスコアを落とし、昨年の2位から順位を1つ落とした。

文化・交流

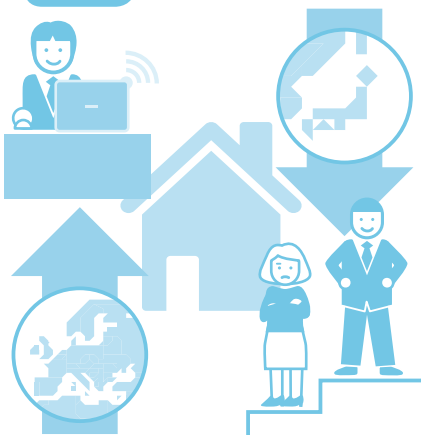
◆**文化・交流**の上位5都市は、ロンドン(1位)、ニューヨーク(2位)、パリ(3位)、東京(4位)、シンガポール(5位)であるが、スコアを見ると、ロンドンが2位以下の都市を大きく引き離している。

◆東京は昨年の5位から4位に順位を上げた。*美術館・博物館数*などの「集客施設」や、*海外からの訪問者数*などの「外国人受入実績」において着実にスコアを向上させていることが要因である。

◆大きく順位を上げた都市としてソウル(11位)やバンコク(13位)が挙げられる。ソウルは*国際コンベンション開催件数*でスコアの伸びを見せ、16位から5つ順位を上げた。バンコクは、*国際コンベンション開催件数*や*美術館・博物館数*、*海外からの訪問者数*の増加により、18位から5つ順位を上げた。

◆新たに対象都市となったドバイは、*ハイクラスホテル客室数*、*外国人居住者数*で1位となり、*海外からの訪問者数*でも高いスコアを得たことで、9位に入った。

居住



- **居住**の上位5都市は、ベルリン(1位)、アムステルダム(2位)、ストックホルム(3位)、ウィーン (4位)、フランクフルト(5位)である。
- ベルリンは、昨年の2位から順位を1つ上げトップとなった。「生活利便性」のスコアはやや低いものの、ほぼ全ての指標で高い評価を得ている。
- 昨年1位だったパリは、7位へと大きく順位を下げた。2015年におきたパリ同時多発テロ事件の被害者数が、*人口あたりの殺人件数*に大きく影響した。
- アムステルダムとストックホルムは、昨年はそれぞれ11位と10位であったが、今年から新たに導入した*ICT環境の充実度*で高い評価を得たことで、順位を大きく上げた。
- 福岡(13位)、東京(14位)、大阪(19位)は昨年トップ10に入っていたが、*社会の自由度・公正さ・平等さ*の評価が低かったことなどを理由に大きく順位を下げた。

環境

- **環境**の上位5都市は、フランクフルト(1位)、チューリッヒ(2位)、シンガポール(3位)、ジュネーブ(4位)、ストックホルム(5位)である。
- 上位に位置するヨーロッパの都市は共通して、*都心部の緑被状況*、*CO_2排出量*、*再生可能エネルギーの比率*で高い評価を得ている。
- シンガポールの強みは、*SPM濃度*の低さや*リサイクル率*の高さである。
- **経済**では高い評価を得たドバイだが、**環境**では39位。最大の要因は、*再生可能エネルギーの比率*の低さであり、44都市中で最下位である。

交通・アクセス

- **交通・アクセス**の上位5都市は、パリ(1位)、ロンドン(2位)、上海(3位)、ニューヨーク(4位)、香港(5位)である。
- GPCI-2017では、対象空港を離発着する全ての旅客数の多さを評価するため、昨年までの*国際線旅客数*を*国内・国際線旅客数*に指標変更した。これにより、国内都市とのアクセシビリティが高い都市(アメリカ都市、中国都市、東京)はスコアを伸ばしている。
- 上海は、2015年の7位から、2016年の4位、今年の3位と着実に順位を上げており、「国際交通ネットワーク」や「交通インフラキャパシティ」の評価が高い。
- 東京は昨年の11位から6位に上がった。*国内・国際旅客数*の指標改訂の影響も大きいが、このほかにも「国際交通ネットワーク」の*国際線直行便就航都市数*や「交通利便性」の*通勤・通学の利便性*においてスコアの上昇がみられる。

4-1 アクター別ランキングの作成方法

アクター別ランキングは、**経営者**、**研究者**、**アーティスト**、**観光客**、そして**生活者**の5つのアクターの視点から評価を行ったものである。評価にあたっては、まずは各アクターが都市に求める重要な要素を設定し、その上で、各要素に対応する指標を分野別ランキングに用いた70の指標の中から抽出し、アクター毎のスコアを都市別に算出している。

アクター別ランキングの作成フロー

アクター	重視する要素	分野							
		経済	研究・開発	文化・交流	居住	環境	交通・アクセス		
経営者	①企業や商取引等の一定以上の集積	○	—	○	—	—	—	51指標	経営者スコア
	②ビジネスの成長性	○	—	—	—	—	—		
	③ビジネスの容易性	○	—	—	○	—	—		
	④ビジネス環境	○	—	—	—	○	○		
	⑤人材プール(人材の豊富さ)	○	○	○	—	—	—		
	⑥関連サポート産業の集積	○	—	○	—	—	—		
	⑦家族及び従業員にとっての良好な環境	—	—	○	○	○	○		
	⑧政治・経済・災害リスク	○	—	—	○	—	—		
研究者	①質の高い研究機関・研究者・指導者の存在	—	○	—	—	—	—	36指標	研究者スコア
	②研究機関や研究者の集積	—	○	—	—	—	—		
	③研究活動における発想や思考に対して刺激となる空間・機会の存在	—	○	○	—	—	—		
	④研究者受入態勢(研究費助成や生活費補助など)	—	○	○	—	—	—		
	⑤自らの研究分野における就業機会	○	—	—	○	—	—		
	⑥日常生活の環境(住みやすさ)	—	—	○	○	○	○		
アーティスト	①文化的刺激	—	—	○	—	—	—	26指標	アーティストスコア
	②アーティストの集積	—	—	○	—	—	—		
	③マーケットの存在	○	—	○	—	—	—		
	④創作環境(スタジオ、アトリエ賃料、広さなど)	—	—	—	○	—	—		
	⑤日常生活の環境(住みやすさ)	—	—	○	○	○	○		
観光客	①文化的魅力や接触機会	—	—	○	—	○	—	26指標	観光客スコア
	②安全	—	—	—	○	○	○		
	③観光の対象の存在(施設、文化等)	—	—	○	—	—	—		
	④一定水準以上の宿泊施設	—	—	○	—	—	—		
	⑤食事(選択肢や値段等)	—	—	○	○	—	—		
	⑥買物(環境や値段、魅力等)	—	—	○	○	—	—		
	⑦目的地までの移動の利便性(所要時間、運賃等)	—	—	—	—	—	○		
生活者	①購買環境(物価、商品の得やすさ等)	○	—	—	○	—	○	40指標	生活者スコア
	②生活環境(住環境などの日常の生活のしやすさ等)	—	—	○	○	○	○		
	③就業環境(収入、雇用機会等)	○	—	—	○	—	—		
	④教育環境	—	○	—	—	—	—		
	⑤余暇活動	—	—	○	○	○	—		
	⑥安全	—	—	—	○	—	○		
	⑦医療水準	—	—	—	○	—	—		

アクター別ランキング

4-2 アクター別ランキング

アクター別ランキング

ランク	経営者		研究者		アーティスト		観光客		生活者	
1	London	62.0	New York	59.3	Paris	49.8	London	58.2	Paris	64.0
2	Singapore	54.8	London	55.6	Berlin	48.5	New York	51.4	London	61.5
3	New York	53.3	Tokyo	52.7	London	48.0	Paris	49.8	Zurich	58.4
4	Beijing	51.3	Los Angeles	46.5	Vienna	47.6	Tokyo	48.3	Frankfurt	56.9
5	Tokyo	50.0	San Francisco	43.9	New York	47.0	Istanbul	47.7	Berlin	55.9
6	Dubai	49.8	Paris	42.8	Tokyo	46.4	Bangkok	45.6	Tokyo	55.4
7	Shanghai	49.4	Boston	40.6	Barcelona	46.2	Singapore	45.2	Stockholm	55.0
8	Paris	48.8	Chicago	38.5	Beijing	44.5	Dubai	44.9	Vienna	54.8
9	Hong Kong	48.7	Singapore	38.1	Amsterdam	44.1	Barcelona	44.6	Amsterdam	54.7
10	Kuala Lumpur	46.7	Seoul	37.5	Toronto	43.1	Shanghai	44.6	New York	54.6
11	Sydney	46.7	Beijing	33.0	Los Angeles	42.1	Beijing	42.5	Geneva	52.3
12	Seoul	46.7	Sydney	32.5	Madrid	40.1	Berlin	41.8	Copenhagen	52.2
13	Istanbul	44.7	Berlin	32.3	Buenos Aires	40.0	Sydney	41.6	Boston	51.9
14	Amsterdam	43.7	Washington, D.C.	32.3	Vancouver	39.9	Madrid	40.7	Brussels	51.4
15	Stockholm	42.5	Hong Kong	31.2	Stockholm	39.5	Vienna	40.5	San Francisco	51.2
16	Berlin	42.3	Osaka	30.8	Sao Paulo	38.7	Hong Kong	40.2	Sydney	50.6
17	San Francisco	41.6	Amsterdam	28.4	Milan	38.4	Amsterdam	40.2	Singapore	50.6
18	Los Angeles	41.4	Toronto	26.7	Istanbul	38.3	Los Angeles	38.8	Hong Kong	50.3
19	Toronto	41.1	Zurich	25.7	Osaka	38.2	Kuala Lumpur	38.6	Beijing	50.3
20	Zurich	40.2	Geneva	25.5	Mexico City	38.2	San Francisco	38.4	Los Angeles	49.9
21	Frankfurt	40.2	Stockholm	25.4	Shanghai	37.9	Mexico City	38.3	Barcelona	49.6
22	Boston	39.6	Vienna	25.3	Kuala Lumpur	37.9	Buenos Aires	37.2	Madrid	49.4
23	Vancouver	39.5	Vancouver	25.2	Frankfurt	37.3	Sao Paulo	37.0	Toronto	49.4
24	Copenhagen	39.2	Brussels	24.9	Seoul	37.2	Seoul	37.0	Washington, D.C.	49.2
25	Chicago	38.8	Moscow	23.8	Moscow	36.8	Osaka	36.1	Milan	49.1
26	Bangkok	38.8	Copenhagen	23.2	Fukuoka	36.6	Brussels	36.1	Vancouver	48.8
27	Vienna	37.6	Dubai	23.0	Bangkok	36.6	Frankfurt	35.1	Seoul	48.6
28	Geneva	37.3	Shanghai	22.8	Brussels	36.5	Moscow	34.9	Osaka	48.3
29	Washington, D.C.	36.6	Barcelona	21.1	Chicago	35.2	Chicago	34.5	Fukuoka	47.6
30	Brussels	35.8	Fukuoka	20.6	Mumbai	34.9	Milan	34.3	Buenos Aires	46.1
31	Osaka	35.3	Frankfurt	20.5	Copenhagen	34.7	Boston	34.0	Chicago	45.9
32	Fukuoka	33.9	Bangkok	20.1	Cairo	32.4	Washington, D.C.	33.1	Moscow	45.5
33	Taipei	33.7	Milan	19.9	Washington, D.C.	31.6	Toronto	32.9	Shanghai	44.9
34	Mumbai	33.0	Taipei	19.5	San Francisco	31.4	Mumbai	32.8	Taipei	42.0
35	Milan	33.0	Madrid	19.5	Jakarta	30.5	Vancouver	32.8	Mexico City	41.4
36	Barcelona	32.7	Kuala Lumpur	19.1	Sydney	29.2	Taipei	31.7	Sao Paulo	39.9
37	Madrid	32.5	Istanbul	18.4	Zurich	29.0	Copenhagen	31.5	Bangkok	37.2
38	Moscow	32.1	Sao Paulo	17.8	Boston	27.8	Cairo	31.0	Istanbul	37.0
39	Jakarta	31.8	Mexico City	17.2	Johannesburg	26.8	Fukuoka	30.4	Kuala Lumpur	36.2
40	Mexico City	29.6	Buenos Aires	15.9	Geneva	25.4	Stockholm	30.0	Dubai	35.3
41	Sao Paulo	27.9	Mumbai	14.3	Singapore	25.1	Jakarta	29.2	Mumbai	34.5
42	Johannesburg	26.3	Jakarta	11.9	Taipei	23.0	Zurich	28.1	Cairo	31.6
43	Buenos Aires	25.9	Cairo	10.3	Dubai	21.4	Johannesburg	26.2	Jakarta	30.9
44	Cairo	24.0	Johannesburg	8.6	Hong Kong	21.0	Geneva	25.8	Johannesburg	24.7

4-3 アクター別ランキング Key Findings

経営者

- **経営者**の視点で見ると、ロンドン(1位)、シンガポール(2位)、ニューヨーク(3位)の評価が高い。
- ロンドンは、「人材プール(人材の豊富さ)」において極めて評価が高く、シンガポールは、「ビジネスの容易性」が高く評価されている。
- ニューヨークは、「ビジネスの成長性」のスコアを伸ばし、昨年の8位から3位へ、東京は、「政治・経済・災害リスク」などの要素でスコアを上げ、昨年の7位から5位へ、それぞれ順位を上げた。
- GPCI-2017から対象都市に追加されたドバイは、「家族及び従業員にとっての良好な環境」の評価は低いものの、「ビジネスの容易性」で香港やシンガポール並みの高いスコアを得た結果、6位に入った。

研究者

- **研究者**のトップ3都市は、ニューヨーク(1位)、ロンドン(2位)、東京(3位)となった。
- ニューヨークは「研究機関や研究者の集積」、「質の高い研究機関・研究者・指導者の存在」の評価が例年高く、その結果、10年連続で首位を維持した。
- ニューヨーク以外の米国都市のうち、ロサンゼルス(4位)、サンフランシスコ(5位)、ボストン(7位)、シカゴ(8位)が、**研究者**にとって魅力的な都市として、上位にランクインした。

アーティスト

- **アーティスト**からの評価が高い都市は、パリ(1位)、ベルリン(2位)、ロンドン(3位)であった。
- パリは「文化的刺激」のスコアが非常に高く、GPCI-2010から8年で連続1位となった。
- ベルリンは、**アーティスト**が都市に求める要素を多く満たしており、さらに「文化的刺激」のスコアが増加した結果、昨年の4位から2つ順位を上げた。
- 一方、昨年2位だったニューヨークは、「マーケットの存在」で評価を落とし、順位を3つ下げて5位となった。

観光客

- **観光客**の上位3都市は、ロンドン(1位)、ニューヨーク(2位)、パリ(3位)であった。
- ロンドンは、「観光の対象の存在(施設、文化等)」、「目的地までの移動の利便性(所要時間、運賃等)」において高い評価を得ている。
- バンコク(6位)とシンガポール(7位)が、それぞれ昨年の12位と11位から順位を上げた。どちらの都市も、「文化的魅力や接触機会」、「安全」の評価が大きく上がったことがその要因である。
- 東京(4位)は、「食事(選択肢や値段等)」、「買物(環境や値段、魅力等)」で高い評価を得ているほか、「文化的魅力や接触機会」でスコアを伸ばし、5位から4位へと順位を上げた。

生活者

- **生活者**の視点で見ると、パリ(1位)、ロンドン(2位)、チューリッヒ(3位)、フランクフルト(4位)、ベルリン(5位)と、ヨーロッパの都市が上位に並んだ。
- アジアの都市の順位は低い傾向にあるが、東京は、「就業環境(収入、雇用機会等)」のスコアが高く、ヨーロッパの都市に続き6位にランクインした。
- パリはすべての要素でスコアが高く、**生活者**にとって魅力的な都市として評価された。
- ロンドンは「余暇活動」が、チューリッヒは「医療水準」が突出して高い評価を得ている。

世界の都市総合力

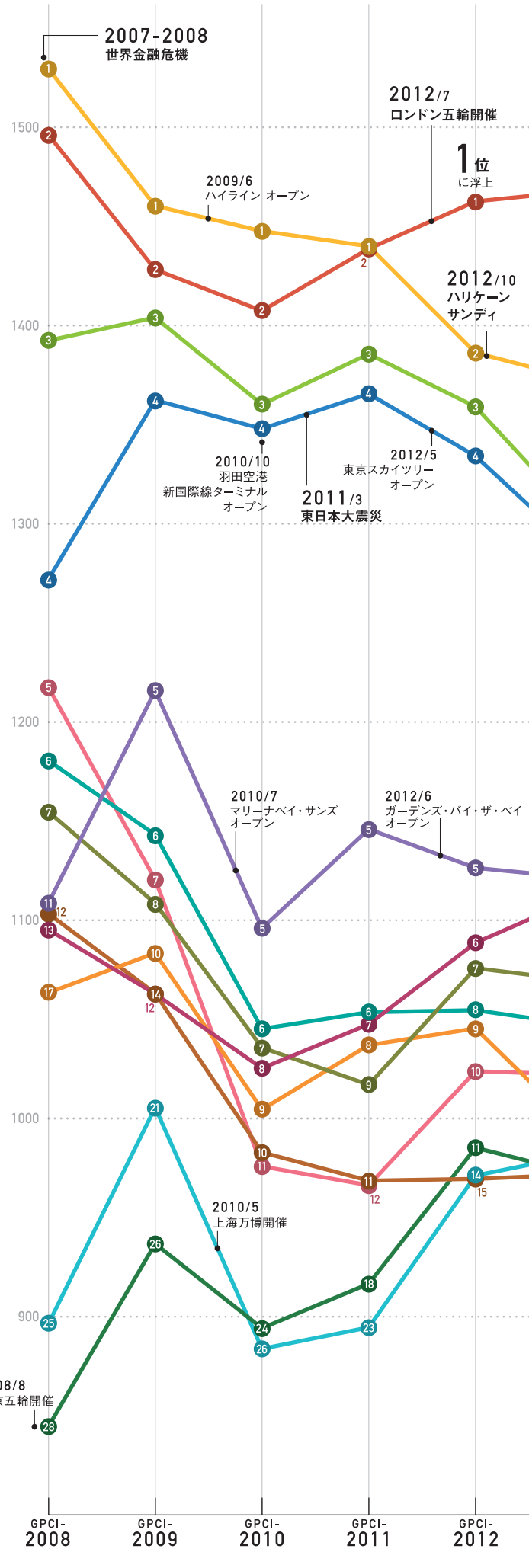
GPCI 10th

2008▸2017

森記念財団 都市戦略研究所が2008年に初めて発表した
「世界の都市総合力ランキング」
(Global Power City Index, GPCI) は
今年で10周年を迎える。

その間、GPCI-2012にはニューヨークから
ロンドンへ首位が交代し、
GPCI-2016には東京がパリを抜き3位へランクアップした。
アジアにおいてはシンガポールや
中国都市が総合力を高めてきている。

過去10年間の主な出来事とともに、
上位都市や成長著しい都市の総合力の変遷を振り返る。



データで見る世界の10年間

人口 (2008→2016)
67.6億人▸74.4億人

海外旅行者数 (2008→2015)
9.3億人▸12.0億人

都市人口割合 (2008→2016)
50.5%▸54.3%

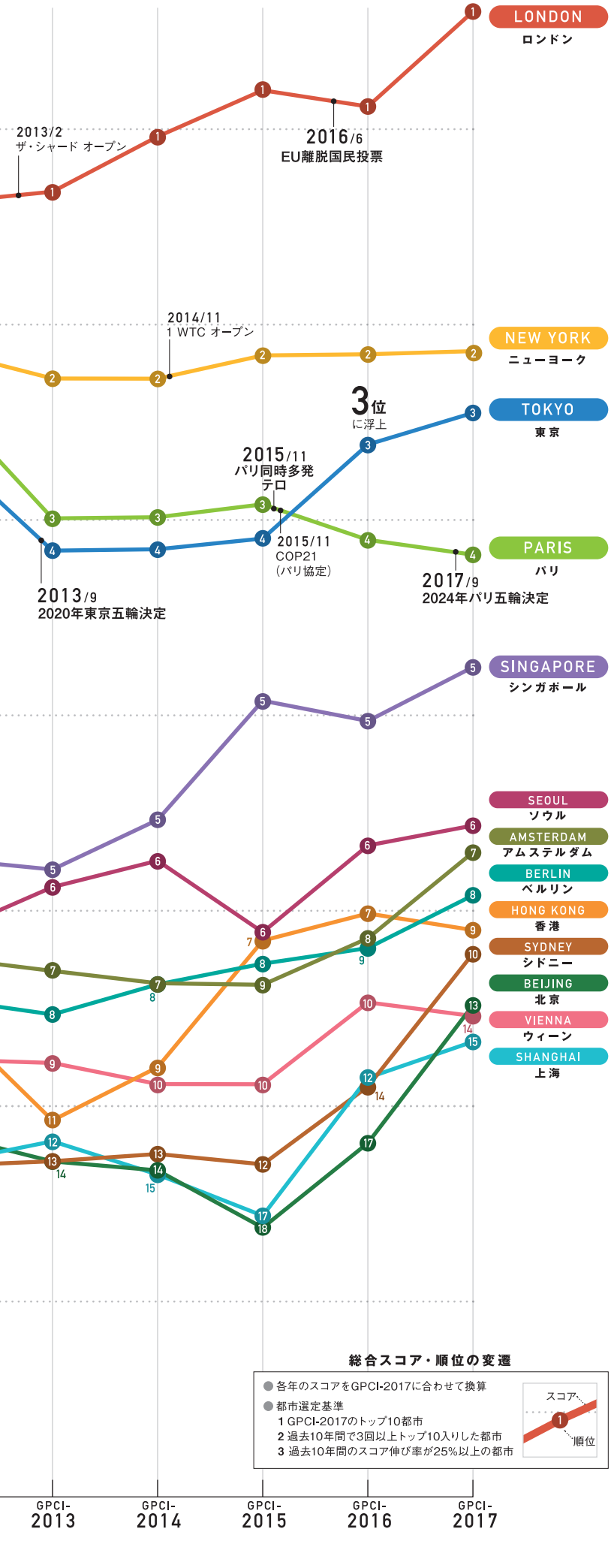
GDP (2008→2016)
63.4兆ドル▸75.5兆ドル

CO_2排出量 (2008→2016)
308億トン▸334億トン

平均寿命 (2008→2015)
70.1歳▸71.9歳

Facebook利用者数 (2008→2017)
1億人▸20億人

ランキングの10年



GPCI-2009▸GPCI-2017 トップ5都市の変化

経済　研究・開発　文化・交流
居住　環境　交通・アクセス
GPCI-2009　GPCI-2017

LONDON

10年間1位を維持し続けている**文化・交流**は、世界的な文化イベント開催件数や文化・歴史・伝統への接触機会、海外からの訪問者数などの指標で高い評価を維持し続け、食事の魅力は、過去10年間で大きく評価が上がった。もうひとつの強みである**交通・アクセス**では、国際線直行便就航都市数、国内・国際線旅客数※は1位を維持し続けてきた。比較的弱みである**居住**についても、小売店舗の充実度などの評価を高めてきたことで、極めて高い総合力を有する都市となった。

海外からの訪問者数
1,534万人▸1,906万人

外国人居住者数
140万人▸197万人

人口あたりの殺人件数
65件▸41件/百万人

公共交通の充実・正確さ
31▸39(スコア)

NEW YORK

GPCI-2009と比較すると、**経済、研究・開発、文化・交流**のスコアが落ちているものの、GPCI-2017の順位はそれぞれ1位、1位、2位と依然として高い評価を得ている。なかでも、**経済**における証券取引所の株式時価総額および優秀な人材確保の容易性は1位を維持し続けてきた。また、国内・国際線旅客数※で評価を高めたことにより、**交通・アクセス**も強みとなった。弱みである**環境**は、過去10年間でほとんどスコアの変化が見られなかった。

TOKYO

トップ2都市と比べると弱かった「交通インフラキャパシティ」において、国内・国際線旅客数※の評価を高めたことにより、**交通・アクセス**も強みとなりつつある。また、海外からの訪問者数の増加などによって、**文化・交流**もスコアを伸ばした。過去6年間1位を維持してきた**経済**に関しては、GPCI-2017で4位まで順位を落としたものの、全分野において高いスコアを得てきたことで、バランス型の都市となりつつある。

国際線直行便就航都市数
76都市▸102都市

海外からの訪問者数
533万人▸1,310万人

物価水準
114%▸73%(対NY)

PARIS

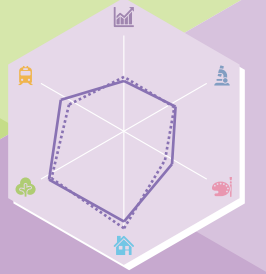
GPCI-2009と比較すると、**環境**におけるリサイクル率や都心部の緑被状況において相対的な評価を下げてきた。また、**研究・開発**における世界トップ200大学や産業財産権（特許）の登録数も評価を落としてきた。一方、**交通・アクセス**では、公共交通（鉄道）の駅密度は10年連続で1位、国際線直行便就航都市数は2位を維持してきた。加えて、**居住**における総労働時間も高い評価を維持し続けてきており、依然として総合力の高い都市といえる。

人口あたりの医師数
6,976人▸8,368人/百万人

国際コンベンション開催件数
465件▸844件

国内・国際線旅客数
3,522万人▸5,645万人

SINGAPORE



大きくスコアを伸ばした分野はないものの、**文化・交流**における国際コンベンション開催件数や外国人居住者数、海外からの訪問者数の評価は常に高い。また、**経済**における政治・経済・商機のリスクは1位を、経済自由度は2位を維持し続けてきた。加えて、近年、**交通・アクセス**における公共交通の充実・正確さの評価も高めてきている。GPCI-2009と比較してさらにバランス型の都市総合力を有する都市となった。

※GPCI-2016までは国際線旅客数

2008▶2017
GPCI 10th

THE FUTURE

GPCIでは過去
10年間の研究において、
都市の魅力や課題を分析し、
都市の総合力の変動を
明らかにしてきた。

これから新たな10年を
迎えるにあたり、
世界の各都市のリーダーが描く
都市の将来像を伺った。

LONDON
Sadiq Khan
サディク・カーン

TOKYO
Yuriko Koike
小池百合子

SEOUL
Park Won-Soon
朴 元淳

AMSTERDAM
Eberhard van der Laan
エバハート・ファン・デル・ラーン

VIENNA
Michael Häupl
ミヒャエル・ホイプル

※2017年9月時点

LONDON

ロンドン市長
サディク・カーン
Sadiq Khan

ロンドンは世界で最もビジネスに適した都市です

才能に満ち溢れた人材の集積、ありとあらゆる部門にわたる膨大な数のグローバル企業の存在、そして行政機関やビジネス支援サービス、重要な欧州市場へのアクセスを擁するロンドンは、世界で最もビジネスに適した都市です。さらに、ロンドンの文化的魅力や食事の魅力、そして数多くのスポーツイベントは世界トップレベルですが、これですら、人々が暮らし、働く場所としてロンドンが魅力的といわれる理由のほんの一部にすぎないのです。

TOKYO

東京都知事
小池百合子
Yuriko Koike

セーフ シティ、ダイバーシティ、スマート シティの3つのシティの実現

「Old Meets New」。3年後の2020年オリンピック・パラリンピックの舞台となる東京は、「伝統」と「革新」が共存する多彩な魅力を持つ都市です。四季折々の自然と近代的な風景が融合する街には、人材、情報、技術、文化が集まり、交流し、日々活力を産み出しています。また、きれいな水と空気、高い治安と正確な交通網、人々の礼儀正しさなども、世界に誇る東京の強みです。

こうした東京の力を磨き上げながら、一方で、少子高齢、人口減少、災害対策、地球温暖化といった直面する諸課題を克服するため、我々は今、「東京大改革」を進めています。より安心で、安全な都市「セーフ シティ」、誰もがいきいきと活躍できる都市「ダイバーシティ」、そして、世界に開かれた、環境・金融先進都市「スマート シティ」、目指すは、この3つのシティの実現です。

2020年のその先を見据え、日本の首都東京を、あらゆる分野で持続可能な「新しい東京」へと再構築してまいります。

OF GLOBAL CITIES

SEOUL

ソウル市長

朴　元淳（パク・ウォンスン）

Park Won-Soon

人々が散歩したくなる快適さを備えた、働きやすく、暮らしやすいグローバル都市

ソウルは、才能豊かな人々、二千年の歴史、そして美しい自然に恵まれた都市です。ソウルの強みのひとつは、高度な情報技術とゆたかな文化的コンテンツです。また、変化に迅速に適応し、革新的な都市モデルを創造する力も、ソウルならではの強みと言えます。この活力により、ソウルは経済の繁栄と生活の質の向上を達成することができたのです。過去10年間で、ひとりあたりの域内総生産（GRDP）が1.5倍に、従業員数は120万人も増加しています。また、2016年にはアルカディス社「持続可能都市インデックス」の「人々の生活の質」分野で1位に輝きました。

しかし、私たちはここで満足することはありません。ソウルが目指すのは、人々が散歩したくなる快適さを備えた、働きやすく、暮らしやすいグローバル都市です。しかし、人々がソウル市民であることを誇りに思い、より多くの観光客を海外から惹きつける都市になるためには、いくつかの課題があると認識しています。そのため、若者や高齢者の雇用創出、研究開発クラスターの確立、観光・MICE・エンターテイメント産業の発展、環境に優しい交通の整備、そして都市再生によるバランスのとれた成長に向けた施策を推進していきます。

AMSTERDAM

アムステルダム市長

エバハート・ファン・デル・ラーン

Eberhard van der Laan

すべての人々にとって魅力的な、住みやすいグローバル拠点であり続ける

今日の世界経済は、都市を中心に動いており、アムステルダムを含むこれらのグローバル拠点は、国際的なイベントや優秀な人材、急成長する多国籍企業を引きつける磁力を持っています。さらに、イノベーション、ナレッジ、そしてスタートアップ企業の育成の場としても機能しています。

アムステルダムが他の都市と違う点は、国際的な都市でありながらも、コンパクトで住みやすく、小さな村のような魅力にあふれていることです。市民や企業が繁栄し続けるためには、この環境を維持し、さらに発展させてゆくことが重要です。そのため、アムステルダムとその周辺地域では、インフラ、インターナショナルスクール、オフィスと住宅市場にさらなる投資をするという意欲的な計画を推し進めています。私たちはこれからも、すべての人々にとって魅力的な、住みやすいグローバル拠点であり続けます。

VIENNA

ウィーン市長

ミヒャエル・ホイプル

Michael Häupl

ウィーンをこれまで以上に革新が花開く都市とする

ウィーンの最大の強みは、異なる地域や企業におけるアクターを統合させる、その包括的で分野横断的な取り組み姿勢です。持続的、革新的、そして社会的な側面を結びつけることで、質の高い生活を保証し維持し続けることを目指しています。

ウィーンではすでに、この目標の達成に向けて多くのプロジェクトに取り組んでいます。具体的な事例としては、市が所有するエネルギー供給会社、ウィーン・エネルギーが運営する「市民の太陽光発電所」が挙げられます。もうひとつの例は、8,500戸、2万人が居住予定の「アスペルン–ウィーンの湖畔都市」です。およそ240ヘクタールにおよぶこの“都市の中の都市”を作るプロジェクトは、ヨーロッパ最大の都市開発のひとつとなります。

今後、ウィーンは資源の消費を大幅に削減すると同時に、すべての市民にゆたかな生活と社会的なつながりを提供し続けます。積極的に変化を起こし、ウィーンをこれまで以上に革新が花開く都市とするために、これらの課題に取り組んでまいります。

2017年10月

編集・発行
一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所
大和 則夫、浜田 祐子、松田 真理子、ダスタン ピーター、滝 典子

装丁・印刷：日経印刷株式会社
特集デザイン：新村印刷株式会社

表紙写真 © rcfotostock, Cla78, somchaij, Givaga, martinhosmat083 – Fotolia

特集データソース　The World Bank Group, data.worldbank.org
BP p.l.c., tools.bp.com
Statista Inc., statista.com

本ランキングに関するお問い合わせ
info@mori-m-foundation.or.jp

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目5番1号 虎ノ門37森ビル
TEL：03-6406-6800
www.mori-m-foundation.or.jp

© 2017 The Mori Memorial Foundation
このパンフレットを許可なく複製・頒布することを禁じます。

Global Power City Index 2017

1 London
2 New York
3 Tokyo
4 Paris
5 Singapore
6 Seoul
7 Amsterdam
8 Berlin
9 Hong Kong
10 Sydney
11 Los Angeles
12 Frankfurt
13 Beijing
14 Vienna
15 Shanghai
16 Stockholm
17 San Francisco
18 Zurich
19 Toronto
20 Copenhagen
21 Brussels
22 Chicago
23 Dubai
24 Barcelona
25 Boston
26 Osaka
27 Madrid
28 Vancouver
29 Washington D.C.
30 Istanbul
31 Kuala Lumpur
32 Milan
33 Bangkok
34 Geneva
35 Moscow
36 Taipei
37 Fukuoka
38 Mexico City
39 Sao Paulo
40 Buenos Aires
41 Jakarta
42 Mumbai
43 Cairo
44 Johannesburg

© 2017 The Mori Memorial Foundation